

図書案内

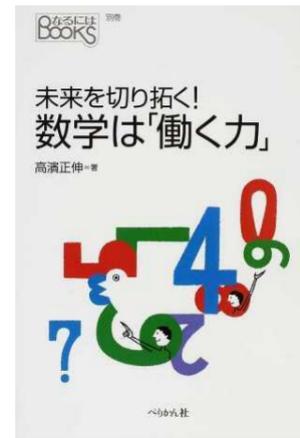
2020年 7月号

担当 3-1 林 3-3 伊藤

進路ってなんだろう

世間ではよく「悩み多き10代」と言われます。様々な悩みがありますが、例えば、目の前の勉強、少し先の進路、そしてそれらの延長上にある自分自身の未来についての悩みを持っている人もいるでしょう。そこで、今回のテーマは「進路」です。本を通して情報を得たり、他者の考えに触れたりすることで、考えを整理したり気持ちが軽くなるかもしれません。勉強のモチベーションも向上するかも！？

本は図書館で貸出しています。



未来を切り拓く! 数学は「働く力」 高濱 正伸

題名に「数学」とありますが、勉強、ひいては作者の人物観の本です。図形センス、空間認知力などのいわゆる「数学的力」について疑問を持ったことはありませんか? 勉強以外でどう役立つのか。そもそも数学を学ぶ意味は……? そんな疑問の答えのひとつがこの本にあります。語りかけるような文章に加え、各章に挟まれた作者の非凡な20代の体験談コラムが手伝って小気味よく読めます。学生へのエールに溢れた一冊です。(林)

その年の年末ころに、ついに木が語りかけてくるのを経験した。

文系と理系はなぜ分かれたのか 隠岐さや香

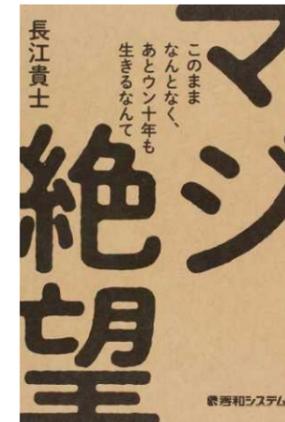
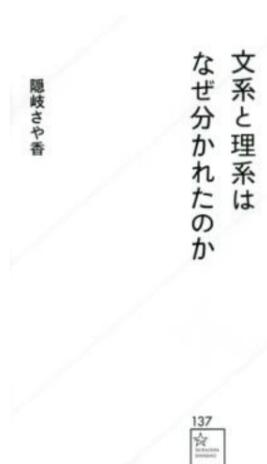
まだ自分の興味のある分野や得意科目・苦手科目がわからず文理選択を迷っている1年生の皆さんと、志望する大学の学部を決めかねている2、3年生の皆さんへ。この本は、中世ヨーロッパから現代までの日本の学問における文系・理系の成立、現状が述べられています。さらに「文・理」の枠組みは将来どのように変化していくか掘り下げて書かれています。学部選択に迷っている人におすすめの一冊。参考になること間違いなし!(伊藤)

歴史を振り返る限り、「文系・理系」を含め、学問の分類を大きく変えてきたのは、人間が扱える情報の増大さと、学問に参入できる人の増加です。

学歴・競争・人生 10代のいま知っておくべきこと 吉川徹 中村高康

学歴と競争、皆さんにとって特になじみの深い言葉だと思います。毎日のように聞いてうんざりしている人も多いのではないでしょうか。この本では、なぜ学歴社会が生まれ、受験競争が起こるのか、高学歴であることによるメリット、大学入学後の人生設計など、高校生向けの内容を現代社会の仕組みと合わせてわかりやすく解説しています。将来への漠然とした不安がある人は是非読んでほしい一冊です。(伊藤)

要するに、誰が能力が高いのかは正確にはわからないから、とりあえずたくさん教育を受けた高学歴の人の知識に頼ろう、となるわけです。



このままなんとなく、あとウン十年も生きるなんてマジ絶望

長江貴士

やりたいことや夢がある。ポジティブで自信家、かつ、自己肯定感が高い。夢に向かって迷うことなく全力を出すことができる。——という生き方ができず苦しんでいる、または、そのようにふるまっているが何か違和感を抱いている……。世間で言われる「前向きな生き方」が合わないと感じる人へ、著者が別の生き方の一例を紹介しています。それは、理想を捨て、現実を受け入れるという生き方です。この本を読むと、少し気楽に生きるヒントが見つけれられるかもしれません。(林)

現実には正解だ

今は役立たなくても、将来周りの人を笑顔にするかも……?

「イグノーベル賞」という賞をご存じでしょうか。イグノーベル賞は「人々を笑わせ、そして考えさせる業績」に対して贈られる賞です。ちなみに、「イグノーベル(Ig Nobel)」とは、ノーベル賞創設者アルフレッド・ノーベルの姓に否定的な接頭辞「Ig」をつけた造語で、下等な、下品な、見下げたという意味の「ignoble」を掛けたジョークだそうです。ノーベル賞と同じ、物理学、化学、平和、経済学、医学生理学、文学のカテゴリーのほか、公衆衛生学賞、心理学賞、昆虫学賞など本家ノーベル賞には無いカテゴリーも随時追加されています。そして2019年度のイグノーベル化学賞は、日本人チームが「5歳児の1日当たりの唾液分泌量の推定」で受賞。なんと日本人は13年連続で受賞しています。勉強や将来の進路を考えると気が重くなることもありますが、今勉強していることが将来の研究につながり、いつかは人の役に立つかもしれません。また、役に立たなくても周りの人を笑顔にするかもしれない、そんなことを考えながら日々を過ごしてみるのも悪くないですね。

【記事出典】イグノーベル賞について <https://www.improbable.com/ig-about/> コトバンク <https://kotobank.jp/word/> 日本未来科学館 <https://blog.miraikan.jst.go.jp/articles/20190913132019.html>

